

書評

PT・OT入門 イラストでわかる内部障害

上杉雅之(監修), 堀江 淳(編集)

B5判・352頁

定価: 本体4,500円+税

医歯薬出版刊, 2020年



臨床に対する思いが詰まった1冊

[評者] 高倉保幸 埼玉医科大学保健医療学部理学療法学科

昨今では、リハビリテーションの対象領域が急速に拡大してきているが、特に著しく対象が増えているのは間違いなく内部障害であろう。社会のニーズに応えるべく、理学療法士・作業療法士は内部障害について学ばなければならないが、内部障害はその言葉からもわかるように人体の表面からは直接観察できないものが多く、さまざまな検査データを集め、適切な知識と照らし合わせながら評価・判断をしていかなければならない。学習内容は多岐にわたり、私も教育者の1人として日々内部障害の学習支援の難しさに頭を悩ましている。

本書は、題名からもわかるとおり、イラストを多用した内部障害のテキストである。構成は、内部障害総論から始まり、呼吸器疾患、

循環器疾患、代謝疾患・糖尿病と続き、最後は症例紹介となっている。疾患別の各項目では、解剖・生理学から始まり、疾患の基礎知識、検査データ、治療について詳しく解説され、具体的な障害評価と理学・作業療法プログラムが具体的に解説されている。

イラストが多いので、これから勉強しようとしている学生や、該当する領域の経験が浅い理学・作業療法士でも具体的なイメージをもちやすい。各章末には確認問題があるので、知識が定着されているかを自分で確認することができる。さらに、臨床的な「トピックス」や「先輩からのアドバイス」を掲載することで、より臨床的な内容となっている。近年では、エビデンスの有無が強く問われるようになってきており、本書でもエビ

デンスに基づいた内容になっている。一方、エビデンスばかりを重視すると技能の学習がおろそかになってしまいがちであるが、本書ではイラストを多用することでエビデンスばかりではなく適切な技能をも学習できるようになっている。臨床の流れを意識して解説が進むため、私自身、ずっと臨床場面を想像しながら本書を読むことができた。題名には「PT・OT入門」とあるが、私のように臨床経験が30年以上ある者でも、よりレベルアップするために十分役立つテキストとなっている。

各執筆者の臨床に対する思いの詰まった本書を、学生から臨床経験の豊富な理学療法士、作業療法士まで多くの方に自信をもってお勧めしたい。